

福島工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	人文科学 I
科目基礎情報					
科目番号	0010	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	演習	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	都市システム工学科	対象学年	1		
開設期	通年	週時間数	2		
教科書/教材	哲学・倫理学概論、松島隆裕、学術図書出版社；哲学的思索への道、笠井貞、文化書房博文社；技術者倫理、松島隆裕、学術図書出版社；工学系卒論の書き方、別府俊幸・渡辺賢治、コロナ社				
担当教員	笠井 哲				
到達目標					
①広義の「倫理」的な事象について、理解することができる。 ②青年心理学を学ぶことで、「アイデンティティ」を確立することができる。 ③専門職業人に必要な「職業倫理（技術者倫理・ビジネス倫理）」を確立することができる。 ④現代の倫理的な諸問題について、グループディスカッションを通して、考察し判断することができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
基礎的能力	青年心理学、東西の源流思想、日本思想、西洋近代哲学を理解し、自分のことばで説明できる。	青年心理学、東西の源流思想、日本思想、西洋近代哲学を理解している。	青年心理学、東西の源流思想、日本思想、西洋近代哲学を理解できていない。		
専門的能力	専門職業人に必要な「職業倫理（技術者倫理・ビジネス倫理）」を確立することができる。	専門職業人に必要な「職業倫理（技術者倫理・ビジネス倫理）」を理解することができる。	専門職業人に必要な「職業倫理（技術者倫理・ビジネス倫理）」を確立することができない。		
汎用的技能	グループディスカッションを通して、十分なコミュニケーションスキルを身につけることができる。	グループディスカッションを通して、通常のコミュニケーションスキルを身につけることができる。	グループディスカッションを通して、コミュニケーションスキルを身につけることができていない。		
態度・志向性	グループディスカッションを通して、十分なチームワーク力を身につけることができる。	グループディスカッションを通して、通常のチームワーク力を身につけることができる。	グループディスカッションを通して、チームワーク力を身につけることができていない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 (A) 学習・教育到達度目標 (F)					
教育方法等					
概要	人生の諸問題を正しく判断できるようになるために、青年心理学から始め、東西の源流思想、日本思想、西洋近代哲学の基礎にある人間観、すなわち「倫理」を中心に学習する。さらに、専門職業人に必要な「職業倫理（技術者倫理・ビジネス倫理）」の基本事項やSDGs等の現代の諸問題を考察する手法を学ぶ。毎回、グループディスカッションを実施する。				
授業の進め方・方法	高専から始まる授業なので、まず基本事項を理解させる。また、チームワーク力やコミュニケーションスキル、主体性や責任感といった汎用的能力を養うため、グループディスカッションを毎回実施する。さらに、論理的思考力を高めるために、課題レポートを提出させる。定期試験（期末のみ）を実施し、グループディスカッションやレポートと総合的に評価し、60点以上を合格とする。ただし、再試験の受験は定められた期限内に課題を提出した者のみに認める。				
注意点	倫理という学問の性格上、知識を記憶するだけにとどまらずに、自分で考えて判断することが大切である。自分の問題として考えたことを、自分の言葉で表現（グループディスカッションやレポート）できるようにする。				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
前期	1stQ	週	授業内容	週ごとの到達目標	
		1週	倫理とは何か	倫理に関する様々な定義について理解できる。	
		2週	人間とは何か	人間に関する様々な定義について理解できる。	
		3週	青年期の特徴	モラトリアムとアイデンティティについて理解できる。	
		4週	自己実現とは何か	キャリア・ディヴェロップメントの意義について理解できる。	
		5週	日本の風土と文化	和辻哲郎の『風土』の思想について理解できる。	
		6週	古代日本の歴史と思想	古代の神々と清明心の意義について理解できる。	
		7週	中世日本の歴史と思想	日本の仏教、特に鎌倉仏教の意義について理解できる。	
	2ndQ	8週	古代ギリシア哲学(1)	自然哲学者、ソフィスト、ソクラテスについて理解できる。	
		9週	古代ギリシア哲学(2)	プラトン、アリストテレス、ヘレニズムについて理解できる。	
		10週	キリスト教の成立と展開	イエス、パウロ、アウグスティヌスの思想について理解できる。	
		11週	イスラム教の成立と展開	ムハンマドの生涯と思想について理解できる。	
		12週	仏教思想の成立	仏陀（釈迦）の生涯と思想について理解できる。	
		13週	仏教思想の展開	小乗仏教と大乘仏教の思想的意義について理解できる。	
		14週	中国思想の成立と展開	儒家思想の意義について理解できる。	
15週	まとめ	14週までを踏まえ青年心理学と倫理学を学ぶ意義を説明できる。			

		16週		
後期	3rdQ	1週	西洋近代の成立	ルネサンスの科学技術への関与について理解できる。
		2週	宗教改革と科学革命	ルターの職業召命観、ニュートンの思想について理解できる。
		3週	科学技術思想の成立	ベーコンの「知は力なり」とデカルトの物心二元論について理解できる。
		4週	生命倫理とは何か	脳死と臓器移植、QOLと尊厳死について理解できる。
		5週	環境倫理とSDGs	世代間責任倫理、SDGsについて理解できる。
		6週	職業倫理とは何か	伝統を踏まえた現代の職業倫理について理解できる。
		7週	技術者倫理とビジネス倫理	製造物責任法、内部告発、説明責任について理解できる。
		8週	倫理問題の事例研究	技術者倫理やビジネス倫理に関する事例を検討できる。
	4thQ	9週	嘘はなぜ悪いか(1)	カントの義務論について理解できる。
		10週	嘘はなぜ悪いか(2)	ベンサム功利主義について理解できる。
		11週	誰を助けるべきか(1)	完全義務と不完全義務について理解できる。
		12週	誰を助けるべきか(2)	効用計算と平等について理解できる。
		13週	危険にどう向き合うか(1)	リスクの許容度について理解できる。
		14週	危険にどう向き合うか(2)	科学の限界と実践的判断について理解できる。
		15週	まとめ	14週までを踏まえ、倫理を身につけた専門職業人としてSDGsの達成を目指すことができる。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地理歴史的分野	民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。	3	
			公民的分野	人間の生涯における青年期の意義と自己形成の課題を理解し、これまでの哲学者や先人の考え方を手掛かりにして、自己の生き方および他者と共に生きていくことの重要性について考察できる。	3	
			現代社会の考察	現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。	3	
	工学基礎	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	説明責任、製造物責任、リスクマネジメントなど、技術者の行動に関する基本的な責任事項を説明できる。	3	
				現代社会の具体的な諸問題を題材に、自ら専門とする工学分野に関連させ、技術者倫理観に基づいて、取るべきふさわしい行動を説明できる。	3	
				技術者倫理が必要とされる社会的背景や重要性を認識している。	3	
				社会における技術者の役割と責任を説明できる。	3	
				情報技術の進展が社会に及ぼす影響、個人情報保護法、著作権などの法律について説明できる。	3	
				高度情報通信ネットワーク社会の中核にある情報通信技術と倫理との関わりを説明できる。	3	
				環境問題の現状についての基本的な事項について把握し、科学技術が地球環境や社会に及ぼす影響を説明できる。	3	
				環境問題を考慮して、技術者としてふさわしい行動とは何かを説明できる。	3	
				国際社会における技術者としてふさわしい行動とは何かを説明できる。	3	
				過疎化、少子化など地方が抱える問題について認識し、地域社会に貢献するために科学技術が果たせる役割について説明できる。	3	
				知的財産の社会的意義や重要性の観点から、知的財産に関する基本的な事項を説明できる。	3	
				知的財産の獲得などで必要な新規アイデアを生み出す技法などについて説明できる。	3	
				技術者の社会的責任、社会規範や法令を守ること、企業内の法令順守(コンプライアンス)の重要性について説明できる。	3	
技術者を目指す者として、諸外国の文化・慣習などを尊重し、それぞれの国や地域に適用される関係法令を守ることの重要性を把握している。	3					
全ての人々が将来にわたって安心して暮らせる持続可能な開発を実現するために、自らの専門分野から配慮すべきことが何かを説明できる。	3					
技術者を目指す者として、平和の構築、異文化理解の推進、自然資源の維持、災害の防止などの課題に力を合わせて取り組んでいくことの重要性を認識している。	3					
科学技術が社会に与えてきた影響をもとに、技術者の役割や責任を説明できる。	3					
科学者や技術者が、様々な困難を克服しながら技術の発展に寄与した姿を通じ、技術者の使命・重要性について説明できる。	3					

		グローバル ゼーション ・異文化多 文化理解	グローバル ゼーション ・異文化多 文化理解	それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる 寛容さが必要であることを認識している。	3	
				様々な国の生活習慣や宗教的信条、価値観などの基本的な事項に ついて説明できる。	3	
				異文化の事象を自分たちの文化と関連付けて解釈できる。	3	
				それぞれの国や地域の経済的・社会的な発展に対して科学技術が 果たすべき役割や技術者の責任ある行動について説明できる。	3	
分野横断的 能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相 づち、繰り返し、ボディランゲージなど)。	3	
				他者の意見を聞き合意形成することができる。	3	
				合意形成のために会話を成立させることができる。	3	
				グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実 践できる。	3	
				課題の解決は直感や常識にとらわれず、論理的な手順で考えなけ ればならないことを知っている。	3	
	態度・志向 性(人間力)	態度・志向 性	態度・志向 性	周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができ る。	4	
				社会の一員として、自らの行動、発言、役割を認識して行動でき る。	3	
				チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。	3	
				チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他 者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。	3	
				当事者意識をもってチームでの作業・研究を進めることができる 。	3	
				チームのメンバーとしての役割を把握した行動ができる。	3	
				適切な方向性に沿った協調行動を促すことができる。	3	
				法令やルールを遵守した行動をとれる。	3	
				他者のおかれている状況に配慮した行動がとれる。	3	
				技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を認識し、技術者が社会に 負っている責任を挙げることができる。	3	
				自身の将来のありたい姿(キャリアデザイン)を明確化できる。	3	
				企業には社会的責任があることを認識している。	3	
				コミュニケーション能力や主体性等の「社会人として備えるべき 能力」の必要性を認識している。	3	

評価割合

	試験	課題レポート	グループディスカッション	合計
総合評価割合	60	20	20	100
基礎的能力	30	0	0	30
専門的能力	30	20	0	50
汎用的能力	0	0	10	10
態度・志向性	0	0	10	10